

和歌山県内経済情勢報告

(令和6年7月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を据え置き)

項目	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっているほか、雇用情勢は、緩やかに持ち直しているなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	5年度は前年度を下回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	6年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、値上げの影響から客単価が上昇しているものの、節約志向がみられることから飲食料品の売上がおおむね横ばいとなっているほか、インバウンドの増加により身の回り品の売上が増加している。

コンビニエンスストア販売は、人流回復に一服感がみられることや、節約志向の高まりを受けて売上が減少している。

ドラッグストア販売は、化粧品や医薬品の売上が増加しており、堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、エアコンの売上が好調となっているものの、物価高の影響から低価格帯の製品への買替えがみられるなど、全体の売上は前年を下回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響を受けて新車供給台数が減少していることから、前年を下回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、円安の影響などにより外国人観光客数が増加していることから、観光客数は堅調に推移している。

(主なヒアリング結果)

- 前年度と比べると来店客数や買上げ点数は減少しているものの、値上げの影響により客単価が上昇していることから売上はおおむね横ばいとなっている。(百貨店・スーパー)
- 身の回り品はインバウンドが大幅に増加した影響で、売上が増加している。(百貨店・スーパー)
- 外出機会の増加により、口紅やリップクリームの売れ行きが良くなっているほか、コロナの症状を抑える解熱剤の売上が増加している。(ドラッグストア)
- 気温上昇に伴いエアコンの売上が好調であるが、物価高の影響もあり、最近では省エネ性能が高い製品よりも展示品や型落ち品などの低価格の製品が人気となっている。(家電量販店)
- メーカーの生産が受注に追いついておらず、ほとんどの主力車種で受注制限がかかっていることから引き続き売上は低調となっている。(自動車販売店)
- コロナの影響がなくなり、より観光に需要が向いていることから前年度と比べて観光客数が増加している。また、円安の影響などからインバウンドも増加しており、1月以降はコロナ禍前を超えている。(公共団体)

■ **生産活動** 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

鉱工業生産指数で見ると、「機械工業」などは低下しているものの、「化学工業」などは上昇している。

企業からは、中国経済減退の影響が継続していることなどから生産量が減少しているとの声が聞かれており、生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 中国の内需が引き続き低調となっており、設備投資需要が回復していないことから、生産量は減少している。(生産用機械)
- 国内のビルや工場など建築需要が伸びていないこともあり、例年並みの生産量となっている。(はん用機械)
- 衣料用洗剤や食器用洗剤について、性能を向上させた新商品の売上が好調となっており、生産量は前年を上回っている。(化学)
- エネルギー関連製品の需要は堅調であるものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響を受けて、自動車関連製品の需要が引き続き低調となっている。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

新規求人数（6年5月）は、前月と比べて減少しているものの、有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 「運輸業、郵便業」について、4月からの時間外労働の上限規制により、トラックの運転手を中心に人手が不足しているほか、観光需要の高まりを受けてタクシーやバスの運転手の人手も不足している。（公的機関）
- 現状人手は不足していないが、今後、人手不足になることに備えて、継続して外国人技能実習生を受け入れている。（はん用機械）
- セミセルフレジを導入できている店舗や店頭売り場を減らしている店舗において、業務量が少なくなっていることから人員がやや過剰気味となっている。（百貨店・スーパー）
- 慢性的に整備士が不足している。中途採用で通年募集しているが入ってくる人材も高齢化しており、辞める人も一定数いることから状況が好転していない。（自動車販売店）
- 宿泊施設について、従業員が不足していることから予約数を絞って対応しており、客室を100%稼働できない状況。外国人観光客の割合が高いものの、外国語で接客できるスタッフが少ないことから対応に時間がかかっている。（公共団体）

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和6年4-6月期調査）でみると、6年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和6年4-6月期調査）でみると、6年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を上回る」

新設住宅着工戸数（3ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を上回っている。内訳でみると、分譲で前年を下回っているものの、持家、貸家で前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回る」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を上回っている。内訳でみると、市町村、独立行政法人等で前年を下回っているものの、国、県で前年を上回っている。

■ 企業倒産 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和6年4-6月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業、中小企業のいずれも「下降」超となっている。

連絡・問合せ先 和歌山財務事務所 財務課 TEL：073-422-6142